

平成 21 年 6 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2008

課題番号：19730551

研究課題名（和文） 美術館活動を素材とした汎用的教材の開発

研究課題名（英文） Research and Development of Educational Tools for Museum Utilization

研究代表者 稲庭彩和子

（神奈川県立近代美術館 普及課 研究員）

研究者番号：70450799

研究成果の概要：

美術館活動を素材とした汎用的教材を開発、制作した。制作の過程では、学校の先生とともに検討を重ね、その意見を反映させた授業案を制作した。授業案は印刷物として研修で配布をすることを予定しているが、インターネット上でも公開をしている。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
19年度	1,700,000	0	1,700,000
20年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,700,000	300,000	3,000,000

研究分野：美術館教育 鑑賞教育

科研費の分科・細目：教材研究

キーワード：美術館教育、鑑賞、ヴィジュアル・コミュニケーション、文化資源学、美術史

1. 研究開始当初の背景

ここ十数年、美術館の教育普及活動は活発になり、多くの美術館がギャラリートークや講演会、ワークショップ、ワークシートの配布など、学びの機会や情報の提供を様々な広げてきた。一方で学校教育においても美術館と学校の連携が推奨され、いくつかの先進的な地域では連携活動が活発に行われてきたが、全国的にみればまだまだ発展途上の分野といえる。とくに、学校が美術館を教育の場として活用していく際に参考にできる教材が不足

しており、美術館を教育資源ととらえ組み立てられた教材の開発が求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、作品のみならず、文化資源としての美術館のシステム全体やその専門性を多様な形で活用するための、教材の提案・開発を目的とした。

3. 研究の方法

神奈川県立近代美術館の美術館活動を基本的な資源として、それをどのような形に教材

にするのが、学校の現場にとって有効であるのか、地域の学校教員に協力をしてもらい、検討を重ねた。

教員には、実際に授業で実践をしてもらい生徒の反応も踏まえて教材制作の参考とした。

4. 研究成果

美術館を活用していく際に、まず美術館自体がどのような機能を持ちどのような活動をしているのかを、学校の先生はじめ生徒たちに端的に理解してもらえる教材が必要だということがわかった。そうした意見を踏まえ、美術館活動全体がコンパクトにわかる動画をDVDの形にし、貸出および配布ができるようにした。

また「MuseumBox 宝箱」と名付けられた美術館体験キットを、学校の授業などでどのように活用できるかを多角的に検討および実践をし、活用事例を整理した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

稲庭彩和子

「公立美術館における科学研究費の取得」
シンポジウム「ミュージアムをどう評価するのか—学芸員の専門性と美術館・博物館の力—」、美術史学会、2009年5月、東京都美術館

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

DVD

『美術館を知る』

The Story Of Our Museum

ウェブサイト Museum Box 宝箱

<http://www.museumbox.net>

6. 研究組織

(1) 研究代表者 稲庭 彩和子